特定非営利活動法人草加市カヌー協会

草加パドラーズ

[会報第 93 号] 平成 30 年 6 月 25 日発行

□草加パドラーズ事務局　住所　草加市松江 2-4-16□電話　048-931-3844

自然が戻ってきた！

カルガモ親子を発見

シジミ、タニシ、黒べんけいカニ

6 月 24 日(日)、昨夜の雨もあがり、佐藤、木村、古田、二ノ宮、中島が宮代橋間の定例活動をしました。ゴミ回収量は 4 袋の成果でした。
宮代橋付近にカルガモ親子がスイスイ泳いでいるのを発見、手代新橋左岸付近で黒べんけいカニを、神明排水機場干潟でシジミとタニシを発見。綾瀬川でシジミが復活したのは 50 年ぶりのことです。

《水質検査》 6/23(土) 午前 7 時 気温 23 度 水温 22.9 度 透視度 31 cm COD 8 mmg/L

SNI 自転車部布谷博之氏たちとの**水陸合同ゴミ拾い活動**が、東武よみうり新聞に紹介されました。これからも関係機関と連携して活動をしてまいります。
水質検査の測定値を掲載しました。透視度 30 cm、COD 8 mmg/L は、綾瀬川をもっと浄化・清流化への取り組みが必要と考えます。

東武よみうり 週刊
THE TŌBU YOMIURI SHIMBUN 第1971号
2018年（平成30年） 6月25日（月）
発行所
東武よみうり新聞社
〒343−0843
埼玉県越谷市蒲生茜町3−9
電話 (048)987−0611
Fax (048)987−0614

綾瀬川で〝水陸〟大掃除

カヌーと自転車使い

環境保護と観光資源化へ

草加「パドラーズ」と「SNI自転車部」

草加市の二つの市民団体が10日、市内を流れる綾瀬川で、〝水陸同時クリーン作戦〟を実施した。「草加パドラーズ」（木村高明会長）と「SNI自転車部（埼玉）」（木村智子代表）。「彩の国埼玉環境大賞受賞者」表彰式で互いに意気投合し、水上と陸上からごみ回収に取り組むことになった。10日の作戦は、3月に次いで2回目。このクリーン作戦で、かつては全国一汚い川とされた同川の観光資源化を目指すメンバーらは、「ゆくゆくは海の環境保護にもつながる」と活動を継続していくという。

〝自転車部隊〟から陸のごみを受け取る〝カヌー部隊〟（上）と、参加者たち（下）

「草加パドラーズ」は4年前から、綾瀬川でカヌーを使い、定期的に浮遊ごみなどの清掃をしている。一方、「SNI自転車部（埼玉）」は3年前から、〝サイクルトレーラー（自転車用牽引荷台）〟を付けた自転車で、国道298号線など県内の主要道路にポイ捨てされたごみの回収を行っている。

両団体は今年2月1日、さいたま市の知事公館で行われた「優れた環境保全に関する取り組み」を表彰する「平成29年度彩の国埼玉環境大賞受賞者」表彰式で優秀賞を受賞。偶然、席が隣り合わせ、同じ草加市内のグループということもあって意気投合した。

綾瀬川はかつて、国の「全国一級河川水質現況」で、15年連続全国ワースト1（1980〜94年）を記録した。下水道の普及や浄化施設の稼働で、水質は大幅に改善されてきたものの、ごみの不法投棄は後を絶たず、水面や河川敷にはさまざまなごみが散乱、浮遊している。

そこで両団体は水陸同時クリーン作戦を思い立った。

3月18日に続く2回目の10日、回収したごみは、ペットボトルなどを中心に45リットルごみ袋で5袋。座椅子や車の部品のような粗大ごみも回収した。回収ごみは、「草加パドラーズ」が日頃回収した分と合わせて、国土交通省江戸川河川事務所中川出張所（越谷市）により処分される。

「草加パドラーズ」少年部の相原峻人君（12）（草加市立松江中1年）は「自分たちは良いことをしている自負がある。今後も環境美化に真剣に取り組む」と話し、金川玲太君（同）（同草加中1年）は「自転車など泥の中から引き上げるのは大変だったが、地域の清掃活動に貢献できた」と充実した表情を見せた。

「草加パドラーズ」の木村会長（61）や、「SNI自転車部（埼玉）」の布谷博之さん（45）は「プラスチックごみはやがて砕けて、マイクロプラスチック（大きさ1ミリ以下のプラスチック）となり、（海）水中の有害物質を吸着する。それが濃縮して生態系に影響し、人間にも影響する」と警告し、「粗大ごみなどが不法投棄されていると、犯罪者も増える。犯罪抑止効果や、観光資源化、環境保護のためにも今後も活動を続ける」と話していた。